

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|---------------------------------|---------|--|----------|
| 低所得者に対する支援と生活保護制度 Support and public assistance system to low-income | | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | <small>(社会福祉士国家試験受験資格取得必修社会福祉士主任任用資格に係る科目)</small> | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 社会保障論Ⅰ・Ⅱ、高齢者福祉・障害者福祉・母子福祉関連科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 社会福祉士受験資格指定科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 永島 徹 | 講師控え室 | 毎週木曜日 | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| 生活保護を中心とする公的扶助は、憲法25条による国民の「生存権」を保障するものとして存在する。生活保護等公的扶助制度には、一定の原理・原則がある。制度の意味と現状を学習し、生活保護の運用も含めてその在り方について学習する。また、貧困予防としての低所得者支援対策についても学習する。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①公的扶助の歴史と発展、社会的背景から、生活保護制度の原理・原則・運用や現在の課題等を理解できるようにする。 ②社会経済情勢の変化と生活保護制度、ホームレスの自立支援などについて理解できるようにする。 ③生活資金の貸付け等低所得者支援について理解できるようにする。 ④生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際について理解できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| テキスト及び視聴覚教材を活用し、講義やアクティブラーニング形式に進める。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①生存権と生活保護制度の関係を理解し、説明ができる。 ②最低生活費の基準について理解し、説明ができる。 ③貧困の背景及び要因について理解し、説明ができる。 ④生活保護制度における多職種連携の重要性を理解し、その必要性について説明できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(授業の進め方・留意事項・成績評価等) | | | |
| 第2回目 | 公的扶助(生活保護)の概念と歴史について | | | |
| 第3回目 | 資本主義の発達と社会保障制度及び公的扶助制度について | | | |
| 第4回目 | 現代社会における公的扶助の役割と意義・機能について | | | |
| 第5回目 | 生活保護制度の現状① 生活保護の動向と変化及び対応について | | | |
| 第6回目 | 生活保護制度の現状② 生活保護制度の原理と原則及び運用について | | | |

| | | |
|--|-------------------------------|--|
| 第7回目 | 生活保護制度の現状③ 制度の内容と保護の種類（1）について | |
| 第8回目 | 生活保護制度の現状④ 制度の内容と保護の種類（2）について | |
| 第9回目 | 生活保護制度の運営及び実施体制（福祉事務所）について | |
| 第10回目 | 生活保護と社会福祉サービスとの関連について | |
| 第11回目 | 低所得者対策と自立支援について | |
| 第12回目 | 生活保護と生活支援におけるネットワーキングについて | |
| 第13回目 | ホームレス（路上生活者）と生活保護について | |
| 第14回目 | 生活保護制度の課題について | |
| 第15回目 | 現代の貧困と生活保護及び低所得対策の課題 授業のまとめ | |
| | | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 10% | 授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。 |
| レポート | 20% | 提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 10% | 授業において小テストやリアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えが明確に示されている。 |
| 試験 | 60% | 論述、記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 教科書：「低所得者に対する支援と生活保護制度」社会福祉士養成講座・中央法規 参考書・参考資料：授業の都度指示、資料を配布する。 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| 新聞等により生活保護の動向、ホームレス（路上生活者）の動向を把握しておくこと。 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。 | | |